

第1部門 私たちがはじめた、一人ひとりをたいせつにするケアの取り組みで変わった施設ケア(初級編)  
関西学院大学 G号館1階 101教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
12:00～12:25	1-1	特養(新型)	寿光荘	岩手県
		青春時代をもう一度		
		ある日、一人の男性入居者様に同窓会のお知らせ。本人の「参加したい・泊りたい」の願いに、ご家族は反対の意向であった。誰もが過ごした「青春時代」本人らしさを取り戻して頂いたエピソード。		
12:25～12:50	1-2	特養(新型)	愛厚ホーム西尾苑	愛知県
		持っている力を生かして、楽しく過ごす		
		入居者が本来持っている力を発揮することで、その先に楽しみを見出せたら、もっと活力のある生活ができるのでは、と考え取り組んできたこと。「入浴（形態の変更）」「食事（嚥下体操）」「余暇・生活」等に対する取り組み内容と経過。		
12:50～13:15	1-3	老健	中部台ケアセンター	岐阜県
		一人一人に合わせた水分補給を目指して ～脱水、感染予防大作戦～		
		ご利用者様に1日の水分摂取量を1000ml以上とって頂く取り組みを行った。いきなりすべての方が1000ml以上の水分を摂ることは難しく、1人1人に合わせた水分摂取方法を工夫し、水分量を増やすことができた。その取り組みについて報告する。		
13:15～13:40	1-4	グループホーム	せいわながすの里	熊本県
		動き出しは当事者から（起居動作に取り組んで）		
		その人らしさとは何か、動き出しはその人の意志の現れであり、本人の動き出しを「待つ」大切さを大堀先生より学び実践してきた。その実践を継続していく過程で、くりかえし自分達の関わりを見直し、利用者の方から気づかせて頂いたこと、学んだ事を発表したい。		
13:40～14:05	1-5	特養(新型)	古江台ホール	大阪府
		食べる事 食べる楽しさを思い出して欲しくて		
		2017年9月より、ある施設のグループホームから古江台ホールの特養にご入居された方です。ご入居されてから日々食事量が減少し、最近では全く食べて頂けなくなっていました。ご家族にも相談し、どうしたら食べて頂けるのかという取り組みと悩みの報告です。		
14:05～14:20	休 憩			
14:20～14:45	1-6	特養(新型)	こすもす倶楽部	兵庫県
		認知症と口腔ケア		
		認知症と口腔ケアについて、口腔ケアを正しく実践していくことで、認知症の中核症状やBPSDに変化が見られた。口腔ケアモデル事業に参加し、その後の施設の取り組みを紹介。		
14:45～15:10	1-7	特養(従来型)	博愛の園	大阪府
		博愛の園で取り組んだ動き出しは当事者からについて		
		研修を前年度受けたあと、何名かの入居者の方を対象に実践し、取り組んできたことについて報告します。		
15:10～15:35	1-8	特養(新型)	ありすの杜きのこ南麻布	東京都
		できることを引き出すことの大切さ		
		一方的に介助を行うのではなく、その方ができることを信じて待つ人間的な関わりを大切にしています。生活の中で当たり前にしてきたできる力を取り戻し、本来あるその人らしい生活が送れるよう過ごしています。		
15:35～16:00	1-9	老健	聖ルカ苑	熊本県
		動き出しは当事者に取り組んで～本人の力を奪わない為に～		
		当苑は平成27年より大堀先生の「動き出しは当事者から」に取り組んでいるが、今回統合失調症のA氏に「動き出しは当事者から」の視点でベッドから車椅子への一連の動作を見直し、本人の力を引き出しながら行った結果、大きな変化が見られた。私達職員が如何に本人の力を奪い、見逃していたか気づかされたケースである。		
16:00～16:25	1-10	地域密着型特養	花いずみ	岩手県
		聴かせてください あなたの人生		
		身近な方々の生きてきた時代のことがわかりますか？語りたくてまっています。たくさんのが学べます。知識や技術そして苦労したこと。それが生きてきた証です。聞き書きを通して学んだことを発表します。		
16:25～16:40	休 憩			
16:40～17:05	1-11	特養(従来型)	ソエル花泉	岩手県
		入居者様のタイムカプセルを探して		
		今までのアセスメントでは不十分でお年寄りのことがわからないことが多い。エピソードシートをもとに、お年寄りの思い出を探る（記念日の過ごし方、ほめられたこと、好きな曲、思い出の映画など）入居者様の思い出を知ること、一人ひとりを大切にするケアの発表です。		
17:05～17:30	1-12	特養(従来型)	新和苑	熊本県
		「動き出しは当事者から」を通じて～気づきを築く取り組み～		
		「動き出しは当事者から」で学んだことの共通認識と共有するために取り組んでいること		
17:30～17:55	1-13	地域密着型特養	大地の丘 笠寺	愛知県
		心がけで変わる暮らし ～出番があるから動き出す～		
		「動き出しは当事者から」での取り組みでみえた利用者様と職員の変化を報告します。		

第2部門 一人ひとりへの3大介護のあり方とその工夫(基礎編)  
関西学院大学 G号館2階 IS206教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
14:20～14:45	2-1	地域密着型特養	ジロール麹町	東京都
		心身の活動性が低下してもAさんがAさんらしく		
		今年の春から、Aさんの認知症の症状は進行し、心身の活動性が徐々に低下した。食事・排泄ケアなど見直し、生活全般をAさんと同じ立場に立って考え、Aさんらしさを尊重した暮らしをして頂くために取り組んだ。		
14:45～15:10	2-2	特養(新型)	ビハーラ十条	京都府
		お客様が廃用症候群にならない為のケア		
		経口摂取されていたお客様が摂食障害の為、必要な栄養がとれず、入院され、胃ろうを造設して帰ってこられる。お客様の思いや気持ちに寄り添い、お客様の心の本質について考え、笑顔を引き出すケアを実践する。		
15:10～15:35	2-3	特養(新型)	ラスール伊達	福島県
		スキンケアの大切さ		
		スキンケアトラブルによる掻痒感や弄便のある方のケアに対してユニットのスタッフと看護師やケアマネージャーそして相談員が連携して関わった事例を報告します。		
15:35～16:00	2-4	特養(新型)	愛厚ホーム西尾苑	愛知県
		その人らしい気持ちの良い入浴に心掛ける		
		「ユニットの年間目標を具体化した取り組み」 ①季節感のある入浴 ②座浴→個浴への移行 ③個浴マニュアル作り ④個浴の設えをよくする ⑤入浴後の楽しみ（漬物作り）		
16:00～16:25	2-5	特養(新型)	満寿園	京都府
		ユニットリーダーの最初の仕事「便がでないのはなぜ」		
		ユニットリーダーとなってすぐに、ユニット職員の何気ない一言「この方は毎日便が出ていたらしいですが、ここに来てから毎日是不出いですね」から、ユニットで排便について調べ始め、一人ひとりの排泄ケアの方法の違いに気付いた記録です。		

第3部門 “食”の工夫で目指す、その人らしい豊かな暮らし  
関西学院大学 G号館1階 IS106教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(新型)	いこいの杜	鳥取県
12:00～12:25	3-1	入居者の食べる楽しみを支えて「最期まで口から」		
		高齢者にいつまでも「食べること」を楽しみとして感じてもらうことが出来るよう、口腔支援の充実をはかるため、口腔嚥下機能検討委員会を発足しました。発足からの軌跡と、現在の取り組みについて報告します。		
		特養(従来型)	博愛の園	大阪府
12:25～12:50	3-2	ユニットでの食事作りについて		
		入居する前に行っていたように自分で買い物に行き、調理をして食事を食べることが普通の生活と考え食事作りを行ってきましたが、徐々に取り組みの意図が薄れていました。改めて取り組み直した内容について報告します。		
		特養(新型)	サルビア	長野県
12:50～13:15	3-3	お父さんはみんなと一緒に食べることは出来ないんですかね？		
		奥さんからの一言をきっかけに、経管栄養のNさんが経口摂取出来るようにと取り組んだ口腔ケア、そしてNさんらしい暮らしを目指して生活改善を行った事例を発表します。		
		特養(新型)	みどりの郷	福島県
13:15～13:40	3-4	笑顔をつくる魔法のおやつ		
		私たちのユニットのお客様は食べることが大好きで、朝・昼・夕の食事をほとんど残さず召し上がられている。お客様が一日の中で一番楽しみにしているおやつをさらに工夫して提供すれば、笑顔などより豊かな表情を引き出すことができるのではないかと考え、取り組んだ結果を発表する。		
		特養(従来型)	ひかりの園	熊本県
13:40～14:05	3-5	玄米がおしえてくれた事 ～身体の中から元気になるとはどういう事～		
		6年前に玄米と出会い、取り組んできたが徐々に自然消滅しつつある中、1つのユニットが手を上げました。試行錯誤しながら取り組む事でお年寄りの変化がユニット職員の変化につながりました。		
		休 憩		
14:05～14:20				
		特養(従来型)	ぬく森	愛知県
		もっとおいしくごはんを食べたい～多職種を通じて私たちができること～		
14:20～14:45	3-6	食べることが好きなA様のために私たちは何ができるのか。食べこぼしやむせることが増えてきた理由を探り、好きな食事を美味しく食べてもらうために多職種で連携した結果を発表します。		
		特養(従来型)	御前山フロイデガルテン	茨城県
		その人らしい生活の継続を目指して～いま私たちにできること～		
14:45～15:10	3-7	身体的・精神的に食事を摂取することが難しいご利用者様に対し、多職種やご家族様と連携しアプローチすることで、無理なく食事を摂取していただき、その人らしい生活を継続するための取り組みについて報告する。		
		特養(従来型)	なごみ	大阪府
		あたりまえの生活ってなんだろう??		
15:10～15:35	3-8	あたりまえの生活ってなんだろう??という思いから、食の工夫で少しでもあたりまえの生活ができないかと考え、厨房の提供からユニットで手作りごはんを実施し、お年寄りと一緒に作ったり、五感で感じてもらえるように工夫しました。そのことでどういう変化や気づきがあったかを報告します。		
		特養(新型)	ビハーラ十条	京都府
		食事の際の表情を楽しくするため		
15:35～16:00	3-9	食事は全介助の方、徐々に食べ物のためこみが増え、苦しい表情が目立つように。それに対して減らす方法、食事の楽しみは何か。考え、実践したことについて発表。		
		地域密着型特養	第三光が丘ハウス	福井県
		「おぜんざい食べに行きたい」～Hさんの言葉で私の心が動いた～		
16:00～16:25	3-10	数年前に胃ろうを設置し、現在は経口摂取をされているHさん。外出をして食事を楽しみたいというHさんの思いに応えるための取り組みについて発表します。		

第4部門 これまでの暮らしの継続をたいせつにした生活環境づくり  
関西学院大学 G号館2階 202教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
14:20～14:45	4-1	地域密着型特養	ゆうり	大阪府
		環境づくりによるQOLの向上		
		・ 共同スペースの工夫による事故予防。 ・ 畳スペースの工夫による居心地のよい空間づくり ・ 洗面所整備による羞恥心への配慮、ADLの維持		
14:45～15:10	4-2	特定施設入居者生活介護	福光園ケアハウス老楽園	岩手県
		「自由に暮らしたいんだ！」—想いを叶える為の介護を考える—		
		自分らしく自由に生きたい65歳Fさんと出会い生まれたこれも介護？という疑問。若くしてパーキンソン病を患い、生活に障害があるけれど自由に暮らすにはどうしたら良いか？葛藤の記録です。		
15:10～15:35	4-3	回復期病院	イムス札幌内科リハビリテーション病院	北海道
		沢山の患者さんの小さな動き出しと関わりから見えてきたこと		
		対象者の年齢や障害の重症度に左右されず、ご本人の動き出しを見逃さずに関わることで、発揮される能力は変わってくるということを、これまで医療機関の中で関わった沢山の患者さんから教えて頂いたため報告します。		
15:35～16:00	4-4	小規模多機能型居宅介護	うすづか	熊本県
		つなぐ～住み慣れた地域での生活をもう一度～		
		事業所ですごす時間や職員にしてもらうことが増えてしまった利用者が、住み慣れた地域でその人らしい生活を続けていくために、本人のできる力を活かしつつ、地域や知人との関係を構築していく事例。		
16:00～16:25	4-5	特養(従来型)	五色・サルビアホール	兵庫県
		昔の記憶をたどって		
		生活環境が変わったことで意欲や活力がなくなった。そのため、チームで本人の生活歴や好きな事などを見つけ、アプローチすることでQOLの向上に取り組んだ。		
16:25～14:40	休 憩			
16:40～17:05	4-6	地域密着型通所介護事業所	ひかりの園 教良木デイホーム	熊本県
		集落の中にあるデイホームができること		
		通いながら自宅での暮らしを支援する地域密着型のデイサービス。自宅で暮らすことを小さな支えによって継続できる。歳を取ってもまだまだ出来ることはある。OutReachの実践での気づきを発表します。		
17:05～17:30	4-7	特養(新型)	グランデパール	岡山県
		自分らしい生活環境 ～家族と取り組むことで見えてきたこと～		
		居心地の悪い環境から良い環境にするため、家族と一緒に取り組んだことを報告します。		
17:30～17:55	4-8	地域密着型特養	大宮フロイデドルフ	茨城県
		生活環境が変わってしまったご利用者様への関わり～私達ができることとは～		
		入居後の一言「自分の足で歩いて、トイレに行きたい」。本人の気持ちを実現するために取り組みを開始。最終目標を自分でトイレに行ける事に決め、生活環境を本人のニーズに合わせながら日常生活の支援を実践した報告をする。		

第4部門 これまでの暮らしの継続をたいせつにした生活環境づくり  
関西学院大学 G号館3階 301教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		地域密着型特養	洛和ヴィラ天王山	京都府
16:40～17:05	4-9	何もすることがない！～生活の中で見つけた楽しみ～		
		「何かしたい」という利用者のニーズに対し、様々な個別・集団での関わり方を立案・実践する事で利用者個々の思いに少しずつ応えられるようになった。今回は現在までに行った取り組みとその結果・課題を報告する。		
17:05～17:30	4-10	養護老人ホーム	清楽園	熊本県
		施設からの出発（たびだち）～その人らしい生活を支援する～		
		在宅生活の継続が困難との理由から当施設入所となった方が在宅復帰を果たすという事例の発表。本人の気持ちに寄り添い、多くの関係者と連携し、在宅復帰、就労支援を目指し、実現する事が出来た。		
17:30～17:55	4-11	地域密着型特養	結の郷 小牧	愛知県
		一人ひとりの役割を保って頂くために ～暮らしの継続、生きがいを持った暮らし～		
		施設に入居されたお年寄りの多くは、自分の役割を失ってしまいます。お年寄りの一人ひとりに役割を保って頂くためには、またその役割を生きがいに繋げていくためにはどのように接していけば良いか考えていきます。		

第5部門 介護者家族との協働で実現する、その人らしい暮らし方  
関西学院大学 G号館3階 301教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(従来型)	丹後園	京都府
12:00～12:25	5-1	「本人の思い」「家族の思い」「私たちの思いとケア」		
		今必要と感じられている思いに寄り添えるケア、抱えておられる不安に気づき緩和できるケア、ご利用者様にとって心から安心のできる生活をご家族様、関わる全ての職員が共通の思いで支えていくことを目指した取り組み。		
12:25～12:50	5-2	特養(新型)	大地の丘	愛知県
		家族会を通して入居者の希望を家族と叶えた心の支援		
		家族会では、家族と親睦を深める為、年間行事やユニットでの食事会、また誕生日支援等を行っています。その中でも、入居者の希望を叶える為に、複雑な関係だった家族への気持ちを変えた心の支援を紹介します。		
12:50～13:15	5-3	特養(新型)	和里(にこり)	奈良県
		多職種による事故分析から生活者にとって居心地の良い居室環境整備を考える ～家族の言葉、多職種、居室環境～		
		生活者の転倒事故が続いたことから、本人にとって負担を伴う生活環境になっていました。本人や家族の想いを踏まえ、多職種協働で本人にとって居心地の良い居室環境について考察したことを発表します。		
13:15～13:40	5-4	小規模多機能型居宅介護	小規模多機能ホームオハナハウス	福島県
		不安な気持ちに寄り添って		
		「通い」「泊まり」「訪問」のサービス形態が一体となり24時間サービスを提供できる小規模多機能型居宅介護。その強みを活かし、初めてのサービス利用で本人そして家族の不安な気持ちに寄り添い、訪問から通い、泊まりを利用し在宅での生活を継続している事例を発表する。		
13:40～14:05	5-5	特養(新型)	ビハーラ十条	京都府
		「孫の結婚式へ行きたい」 ～94歳 日帰り東京への旅～		
		「孫の結婚式へ行きたい」という本人・家族の想いを叶えるために日帰り東京外出に向けて行った取り組みとその後の生活の中で気付けた家族との関わり方について発表する。		
14:05～14:20		休 憩		
14:20～14:45	5-6	特養(新型)	一本松荘	熊本県
		「ただいま」「おかえり」 ～スタッフと利用者、家族との絆～		
		摂食障害のある利用者様と癌と戦いながら自宅で独居生活をされている利用者様との2つの事例からその人らしい生活を支援していく為にご家族と一緒に悩み相談しながら取り組んだことを報告します。		
14:45～15:10	5-7	医療施設	本田記念病院	北海道
		若年性認知症の家族に対する心理的支援		
		発症から10年が経過した若年性認知症の家族に対する心理的支援として、「動き出しは当事者から」に伴う外出支援を実施したので、取り組みと工夫点について紹介する。		
15:10～15:35	5-8	特養(新型)	せとうち	岡山県
		せとうち別宅計画 ～それぞれの軌跡～		
		逆ショートステイから看取りまでを通し、本人・家族のニーズに対し、多職種と連携し実現に向けて取り組んだ事例。		
15:35～16:00	5-9	地域密着型特養	ひかりの園 指月館	熊本県
		何で老人ホームに入所させたんだ		
		ご入居時、「何で老人ホームに入所させたんだ」と言われていたM様。今では「私、死ぬまでここにいる」との言葉が聞かれるようになりました。この1年半のM様との関わりについて報告します。		
16:00～16:25	5-10	特養(新型)	寿山荘那須	栃木県
		人としての生命・人としての生活～その人らしさとは～		
		H22年5月寿山荘那須に入居。入居当時のご家族様やご本人からの「食事がしたい」「家に帰れるようになりたい」という要望があり、取り組みを行い経口摂取が可能になり、ADLも改善され施設を退去し、在宅復帰へ向けたステップをふむことができたことを報告する。		

第6部門 認知症の方とのコミュニケーションの工夫  
関西学院大学 G号館2階 IS208教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
12:00～12:25	6-1	特養(新型)	ぬく森・第二	愛知県
		「私の居場所はどこですか」やすらぎのある生活づくり		
		認知症を患うAさんはいつも頭を抱え「分かりません」「どうしたらいいの」とつぶやいている。そしてリビングの椅子や居室を落ち着きなく歩いている。私たちはAさんの【やすらぎのある居場所】づくりに取り組んだ。		
12:25～12:50	6-2	グループホーム	グループホーム オハナハウス	福島県
		心配なので帰りたいんです		
		入居時から帰宅願望が見られ、強く出ると職員の声掛けにも聞く耳を持たず外に出て行かれる事が多かった。帰宅願望の起こる時間・理由を探り、情報の共有をすることで対応を統一、また生活の中で楽しみを見つけて頂くために今までの経験から役割を見つけていった。家族と連携をはかり、不安や焦燥感を軽減していった事例を発表する。		
12:50～13:15	6-3	病院	三豊市立西香川病院	香川県
		認知症の方との関わりの中で「うそ」をつくこと		
		認知症の方の対応に困った時、私たちは「うそ」をついてしまっている事が少なくないということに事例を通して気づくことができた。パーソン・センタード・ケアを実践していく為にどのように関わっていくべきか検証する。		
13:15～13:40	6-4	特養(従来型)	五色・サルビアホール	兵庫県
		Yさんと感情失禁に寄り添った180日～くもりのち晴れ、時々大雨～		
		感情の起伏が激しくトラブルが絶えないYさん。時折見せる素敵な笑顔を失わせないためにユニット支援員が試行錯誤しながら取り組んだ様々な支援とその成果、2回の外出を通じて見えてきたものについて発表する。		
13:40～14:05	6-5	地域密着型特養	エバーグリーン	岐阜県
		寄り添う介護を目指して		
		発語や意欲・自発性が見られない利用者から「もっと話し掛けてほしい、話し掛けてくれると嬉しい」と気持ちを伝えられたことで、関わりを持ちその人を知るための取り組みを行った。		
14:05～14:20	休 憩			
14:20～14:45	6-6	特養(新型)	加古川さくら園	兵庫県
		ユニットケアにおける集団レクリエーションの理想と現実		
		当施設ではこれまで個別性を重視し、集団レクリエーションはあまり実施してこなかった。そこで単調な生活が続く入居者の要望に答えるため、集団レクリエーションを実施し、理想と現実について考察したので報告する。		
14:45～15:10	6-7	地域密着型特養	結いの郷	愛知県
		寄り添っていて、いいですか？		
		お年寄りにとって、私たち支援員はどんな存在なのでしょう？お年寄りは私たちに、介護や評価、観察やサービス提供を求めているのでしょうか？今回は、認知症を患ってみえるお年寄りに、私たち支援員が、どのような形で向き合い、寄り添わせて頂いてきたのかを考えてきました。		
15:10～15:35	6-8	病院	三豊市立西香川病院	香川県
		悲観的発言からポジティブな発言へ		
		不安と絶望感に満ちた表情で過ごしているA氏に対し、人生を振り返り前向きに生きていこうとする手助けをしたいと考えた。そこでスピリチュアル回想法をグループで実施し、結果A氏の悲観的発言に変化が見られた。		
15:35～16:00	6-9	特養(新型)	和里(にこり)	奈良県
		「生活者の感情の変化を把握するために」センター方式を用いた情報収集		
		生活者の思いや言動を理解し、コミュニケーションを図っていたつもりだったが分からないことが多い。生活者の感情の変化や現状把握をおこなうために、センター方式を用いて情報収集をおこなった取り組みを発表する。		
16:00～16:25	6-10	特養(新型)	せとうち	岡山県
		タッチケアでの取組み ～心の交流～		
		タッチケアを通して、職員の意識改革。利用者、家族との「心の交流」を図り、毎日癒された時間を過ごしています。このひと手間が「I LOVE YOU」		

第7部門 ターミナルケアから学んだこと、考えたこと、伝えたいこと  
関西学院大学 G号館1階 IS106教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		地域密着型特養	素心苑	青森県
16:40～17:05	7-1	「絶対に病院に行かない！」本人の思いから学んだ看取り		
		同時期に同じユニットでお二人の看取りに携わり、何ができたか。状態が変わるお姿を見るにつれて、揺れ動くご家族のお気持ち。お二人と向き合いながら、ご家族のお気持ちに寄り添った日々を振り返ります。		
17:05～17:30	7-2	特養(新型)	福光園	岩手県
		あなたはどこで最期を迎えたいですか？		
		様々なご入居者様の最期を見届けてきました。印象深く私たちの記憶に刻まれた看取り介護の事例をご紹介します。ご入居者様、ご家族様との出会い、関わりの中で看取り介護の経験を重ねるごとにスタッフ同士の意識にも変化が現れてきました。		

第7部門 ターミナルケアから学んだこと、考えたこと、伝えたいこと  
関西学院大学 G号館1階 IS108教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		病院	三豊市立西香川病院	香川県
16:40～17:05	7-3	「笑う門には福来たる」～苦勞を乗り越えたAさんの人生～		
		終末期ケアにおいて、残された時間を最後まで自分らしく過ごして頂く為に、これまでの生活を大切に思い、本人と共に考え悩み実践してきたことについて報告する。		
17:05～17:30	7-4	特養(従来型)	松楽苑	島根県
		家族のキモチ ～病院より施設での最期を望まれた利用者の看取りから学んだこと～		
		家族の親を思う気持ちが一つになり、最期は病院より施設で看取りたい、このキモチを施設が受けとめ、家族の望まれる施設でのお別れが出来た。家族のキモチを大切にしたい関わりから学んだことを報告します。		
17:30～17:55	7-5	認知症対応型通所介護	ななとこ庵	大阪府
		家で死ぬことって？		
		約2年半、家から出る事がない状態で利用が開始となる。生々しい声、施設入所、再びご自宅に。ご本人、ご家族、各スタッフとの歩みが始まるなか、突然の体調変化。ご本人、ご家族との日々を発表させていただきます。		

第8部門 職員同士のチームケアや多職種との連携  
関西学院大学 G号館2階 201教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
12:00～12:25	8-1	特養(新型)	美里ヒルズ	三重県
		M様ってこんな人？ ～動き出しは当事者から学んだこと～		
		ケアに対して拒否、暴力があったM様、「動き出しは当事者から」を実践し声かけを「〇〇しましょうか」から「〇〇しますか」に変えることでやれないと思っていた事は実はやらせていなかった事に気づきました。		
12:25～12:50	8-2	特養(従来型)	山科苑	京都府
		絶対なんとかする！！～その人を知り・あきらめず・関わること～		
		その人は入所当初、笑顔も見られ元気だった。しかし、不明なコールが頻回になるようになり、体調悪化を機に引きこもる日々。もう一度笑顔を取り戻すために「絶対なんとかする！！」を胸に取り組んだ事例を発表する。		
12:50～13:15	8-3	地域密着型介護老人福祉施設	博愛の園 サテライト特養 清心館	大阪府
		お年寄りの「～したい」を実現するために取り組んだこと		
		日常生活で出来る筋力維持とリハビリがもたらす心身のケアを実践と結果に基づいて発表いたします。		
13:15～13:40	8-4	特養(新型)	清洲の里	愛知県
		ご自身で移乗される方の転倒防止について～安心して生活して頂くために～		
		日々の生活の中で、様々な事故があります。その中でもご自分で移乗することによる転倒事故も少なくありません。調べてみると、介助者の目の届かない所での事故が多いことに気づきました。そんな中、どのようにしたら、ご自分で移乗できる方が安全に移乗でき、転倒防止事故を減少することが出来るかという取り組みを行いました。		
13:40～14:05	8-5	特養(新型)	グランデパール	岡山県
		24時間シートとケアプランの活用方法		
		課題や目標が不明確で、ケアの統一が図れていなかった。ケアプランと24時間シートを連動させ、介護過程を確実に展開して、入居者一人ひとりの生活の質の向上を目指した6年間の取り組みについて発表する。		
14:05～14:20	休 憩			
14:20～14:45	8-6	特養(新型)	大地の丘	愛知県
		「起こしてほしい」が「起きたね」に変わるまでのチームケア		
		寝たままの状態を見て、「このままではいけない」と気づき、離床から始めたチームケア。暮らしに意欲がわき、笑顔が増えました。Y様と共に私達も変わった、その取り組みについて報告します。		
14:45～15:10	8-7	特養(新型)	ぼー愛	兵庫県
		口腔ケアからはじまる・・・・・・		
		ご高齢の方にとって口腔ケアは様々な病気の予防にもつながる重要なものです。利用者様に合ったケアができているのか、ケアは統一されているのかといったところに注目し、その改善について取り組みました。		
15:10～15:35	8-8	特養(新型)	第二丹後園	京都府
		褥瘡へのケアがつくった、あきらめないチーム		
		骨折での入院をきっかけにできてしまった褥瘡。入院中での生活ではこれ以上の改善には皮膚移植手術くらいしかないと言われたYさん。「病院の生活で治らないなら、施設の生活で治そう！」Yさんの生活を徹底的に見直し、改善へ導いたチームケアを紹介します。		
15:35～16:00	8-9	デイサービス	健院L-CUBデイ	福島県
		ピットインケアの実際 ～QOLを取り戻した事例を通して～		
		多機能型集合住宅であるL-CUBに入居され、その人らしい生活を多職種で考えるピットインケアの実践から通所介護においてのQOLを向上させ自信を取り戻すことができた事例を報告する。		
16:00～16:25	8-10	特養(新型)	おきな杜	福岡県
		「誤嚥性肺炎での入院ゼロ」に向けた口腔ケアと嚥下訓練の取り組み		
		言語聴覚士が中心となり、入居者ひとりひとりの口腔ケア手順書を作成し、介護スタッフへ口腔ケアのポイントを指導した。食事前後の口腔ケアを徹底したことで、誤嚥性肺炎での入院人数を大幅に減少させることができた。その取り組み内容を報告します。		
16:25～16:40	休 憩			
16:40～17:05	8-11	特養(従来型)	御前山フロイデガルテン	茨城県
		ご本人の意欲を引き出す介護を目指して		
		「動き出しは当事者から」の手法を用いて、いかにご本人の意欲を引き出す介護ができるか。導入から現在まで実施してきた多職種や他事業所との連携及び「動き出し」の評価方法の検討について事例をふまえて発表する。		
17:05～17:30	8-12	特養(従来型)	慶和園	北海道
		個別ケア「チームとしての関わり」		
		研修に参加した際に「あずき汁」の取り組みに関心を持ち、自施設でも取り入れ「あずき汁」の効果を検証しチームで取り組み実感した事に対しての発表を行います。		
17:30～17:55	8-13	特養(新型・従来型)	五十鈴荘、いちがお園、丹後園、満寿園、虹ヶ丘、第二丹後園、おおみや苑	京都府
		ユニットIN北京都 これまでの相互評価と平成29年度の取り組み		
		平成14年に設立されたユニットIN北京都。現在8施設で互いにケアの向上に取り組んでいます。これまで行ってきた相互評価のまとめと、今年度の取り組みを報告します。		



第8部門 職員同士のチームケアや多職種との連携  
関西学院大学 G号館2階 202教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
12:00～12:25	8-14	特養(新型)	松風	長野県
		利用者の想いに応えるケア ～口から好きなものを食べたい～		
		入院により胃ろう造設。その後、経管栄養へ移行された方が「死んでもいいから口から食べたい」と訴えられた。その訴えに対し、多職種が連携し取り組んだ事例を報告する。		
12:25～12:50	8-15	地域密着型特養	大宮フロイデドルフ	茨城県
		寄り添うケアをめざして ～開設から6年間の取り組み～		
		開設当初、介護未経験の職員も多く、日々業務に流され、ケアもパターン化していた。あれから6年、ケアプランを基軸に利用者様一人ひとりに寄り添うケアをめざして取り組んできた過程についての発表。		
12:50～13:15	8-16	特養(従来型)	かおる園	北海道
		意欲の向上により本人の主体性を自立支援する		
		入居時のA氏は表情の変化がほとんどみられていなかった。車イスを自操することはなく、立ち上がり歩行についても、足の浮腫がひどく、自分では難しい状態。自立支援を行い「本人の口から本人の願いを」聞きたい！		
13:15～13:40	8-17	病院	三豊市立西香川病院	香川県
		認知症の人への動き出しは当事者から～出来ることを信じる大切さ～		
		当院ではH28年から認知症患者を対象に動き出しは当事者からの取り組みを始めた。その中で腰痛をきっかけに、易怒性や活動性の低下がみられたT氏に対し、取り組みを通しての成果や学びを報告する。		
13:40～14:05	8-18	地域密着型特養	洛和ヴィラ大山崎	京都府
		利用者理解を深めていく事の重要性～情報収集シートの活用を試みて～		
		当ユニットでは勤務年数が2年未満と短い職員が多く、利用者1人1人の状態などが十分に理解できないままケアすることで質の低下が課題であった。新たなシートを用いて情報収集ができケアに活かせたので報告する。		

第9部門 施設の人材確保、職場の環境づくりについて  
関西学院大学 G号館2階 IS206教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
12:00～12:25	9-1	特養(新型)	ビハーラ十条	京都府
		介護を身近に！～「何だかおもしろそう！」から始まる人材確保～		
		世間的に3Kというイメージがある介護。そのイメージを拭っていくことが介護業界全体の人材確保に繋がるのではないか。ビハーラ十条の採用広報の取り組みを紹介しつつ、新たな人材に興味を持ってもらう「きっかけづくり」について考えていきます。		
12:25～12:50	9-2	地域密着型特養	いやさか苑	兵庫県
		ノーリフティングケアの効果についての研究		
		ノーリフティングケア（人力で抱え上げない介護）を介護職員の腰痛予防として第一義的に見るのではなく、要介護高齢者の尊厳を守る生活環境の整備として第一義的に捉えた。ノーリフティングケアを実践する施設の現状の把握を目的とした。		
12:50～13:15	9-3	特養(新型)	HOME TOWNコスモス	福井県
		～「ありがとう」が私の誇りです～ 介護人材の確保と定着のために		
		若手職員が考える「若い人材を介護施設に呼び込む為には」との発想から、リクルートチームを編成した。人材確保と入職後の研修、育成について報告します。		
13:15～13:40	9-4	特養(従来型)	もみじ館	茨城県
		離職数14名→3名 「好きな仕事はやめられない」		
		「目標・成果・やる気」の循環に焦点をあて、離職率を大幅に下げること成功。ハッピー重視の外出支援・看取りケア。介護は魅力的な仕事、そこに気付く為に目標を作り、達成していくことが自分達のやる気に繋がる。		
13:40～14:05	9-5	特養(新型)	和里(にこり)	奈良県
		動機づけ要因を意識した人材確保		
		奈良県福祉・介護事業所認可制度を取得し、法人の資質を周知させていき、求職者側、求人側、それぞれの立場の注目度を期待する。現体制をハーズバーグの動機づけ・衛生理論から分析、求めるものは何かを調査する。		

第10部門 スタッフの育成、工夫したこと、苦労したこと  
関西学院大学 G館1階 IS108教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(新型)	グランデパール	岡山県
12:00～12:25	10-1	基本を知ること ～そこから気付くこと～		
		全職員対象に生活支援技術の基本を学ぶ。基本的な動き、知識を伝え、全員で演習に取り組む。その際、他ユニットとの交流も合わせて取り組む。		
12:25～12:50	10-2	特養(新型)	ビハーラ十条	京都府
		年度途中からでも安心して働いてもらいたい		
		定期採用（4月入職）の職員と中途入職の職員へのOJT、研修形態を振り返り、その違いから見出したこと、苦労したこと、職員の定着に向け、改善・工夫したことを発表します。		
12:50～13:15	10-3	特養(従来型)	ロングステージKOBEG岡本	兵庫県
		ママベビー制度の今とこれから		
		当法人の新人職員研修制度であるママベビー制度。先輩職員が新人職員への基本的な介護技術やご利用者のケアに対する考え方等を指導する制度である。今回はこの制度が抱えている課題と今後の展望について発表する。		
13:15～13:40	10-4	老健	きのこ老人保健施設	岡山県
		ここから先へ・・・～気づきを築く～		
		理想を掲げて皆を引っ張っていく先輩方のきらきらした背中を見て私たちは育った。だけど今は、人材育成を任された現場が迷走し疲労している。今のきのこ老健が求める人材は？これから私たちはどこを目指せばいい？		
13:40～14:05	10-5	地域密着型特養	クレール高森	和歌山県
		人事考課制度とチューター制度による新人教育への取り組み		
		「新人教育」に携わる時間を設けにくい、ユニット型施設における人材育成の課題解決に向け、人材育成を目的とした人事考課制度とリンクするチューター制度の運用に取り組んだその内容を報告する。		
14:05～14:20		休 憩		
14:20～14:45	10-6	特養(従来型)	いちがお園	京都府
		「にほんごむずかしいよお」～現在進行中～		
		H29年3月から入職してくれてきたスタッフの育成について、エルダーを決めずに部署内の職員全員でフォローし、育成していること、それによって新しいスタッフだけでなく、まわりのスタッフも成長しているという内容の発表を行います。		
14:45～15:10	10-7	特定施設入居者生活介護	ひびき。	福岡県
		パート研修！～スタッフ全員が心を一つに～		
		当施設において、パート職員が多い中、研修といえば正社員が中心であった。しかし、パート職員と共に働き、支えられている状況を考えると、正社員・パートという隔たりをなくし、心を一つにしていけることが大切であると考えない日はなかった。そこで、以前より施設理念を踏まえた「動き出しは当事者から」の職員研修をパート職員を対象とした研修に変え、出来るだけ全パート職員が参加できるよう、正職員の協力を得ながら研修を始めた。		
15:10～15:35	10-8	デイサービス	福光園デイサービスセンター	岩手県
		職員会議 ～職員のモチベーションアップ・・・自分へ～		
		職員会議のマンネリ化でいつも同じ。職員の半数は聞いているだけで新しい意見はほぼゼロ。意味があるのかと疑問に思い、職員会議を課題に職員のモチベーションアップを図る取り組みを始めました。そこで気付いた自分自身。		
15:35～16:00	10-9	特養(従来型)	洛和ヴィラ桃山	京都府
		習熟度を高めるための教育 ～「知っている」から「できる」へ～		
		これまでの教育では、習得度や効果の確認が行えず研修での学びを実践に活かしきれずにいた。教育システムのあり方について検証し、確実な技術を実践できるようシステムを考慮した。その効果を振り返り、今後の展開について考察する。		
16:00～16:25	10-10	地域密着型特養	ビハーラまどか	熊本県
		動き出しは当事者から ～研修の成果を職員へ～		
		これまで自分が受けてきた「動き出しは当事者から」の研修の成果を職員（現場）に定着させるために、私とご利用者と新人職員への関わりの中でどのように教えていき、「目配り」「気配り」「心配り」の本当の意味を理解して介護職（支援）を楽しく行ってもらおう。		

第11部門 思いのままに実践発表(発表10分+質疑応答5分)  
関西学院大学 G号館2階 IS208教室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(新型)	こすもす倶楽部	兵庫県
16:40～16:55	11-1	生活の場を支えるために ～個々の可能性を引き出すケア～		
		施設に入居したことで、できることが減ってしまう・・・そうはなりたくない。利用者の皆様の生活の場を支えるために、可能性を引き出すケアに取り組んだ。		
16:55～17:10	11-2	特養(従来型)	かおる園	北海道
		地域の施設が協同して多職種連携について考える		
		北海道にある空知老人福祉施設協議会においてかおる園が事務局を務める多職種での連携を深めるための研修である多職種連携研修会について紹介する。		
17:10～17:25	11-3	小規模多機能型居宅介護	いやさか	兵庫県
		地域との関係づくり		
		小規模多機能ホームいやさかには、地域住民誰でも利用可能な地域交流スペースがある。ただ場所を提供する地域交流スペースだが、利用が徐々にされだしてから、施設と地域住民との関係性が強くなってきた。		